

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (中国)	良く なっている	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・1日当たりの来客数が前年に比べて50人以上増加している。工事関係の客が増加し、天候にも恵まれているので飲料や食品の売上が伸びている。
	やや良く なっている	商店街（代表者） 百貨店（営業担当） 百貨店（人事担当） スーパー（店長） スーパー（店長） スーパー（販売担当） スーパー（販売担当） コンビニ（エリア担当） コンビニ（副地域ブロック長） コンビニ（支店長） 衣料品専門店（店長） 家電量販店（店長） その他専門店〔時計〕（経営者） その他小売〔ショッピングセンター〕（所長） 都市型ホテル（総支配人） 通信会社（工事担当） ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子 販売量の動き 単価の動き 販売量の動き 販売量の動き 販売量の動き お客様の様子 来客数の動き 単価の動き 来客数の動き 来客数の動き 単価の動き 単価の動き 販売量の動き お客様の様子 来客数の動き	・夏のボーナス支給や各店のセールにより客の消費マインドが上昇している。 ・6月は定価販売商品の動きが厳しかったが、7月に入りセール商品が好調に推移している。猛暑日は少ないが高気温も夏物売上に好影響を与えており、来客数も前年を大幅にクリアしている。 ・客単価が上昇している。工芸品や宝飾品など高額商品の動きが良い。 ・気温が上昇し好天も続き販売量が増えている。 ・商圏内の大手鉄鋼業企業が好景気である。 ・飲料などの夏物商材の売上が伸びている。 ・客の財布のひもは固いままであるが、7月下旬から8月上旬まで中国総体があるので、県内の宿泊客と観光客が増え、当店への来客数も増えている。 ・気温上昇に伴い飲料、アイス、中食商品の動向が活発になり、景気はやや上向き傾向にある。 ・来客数は横ばいであるが、買上単価と買上点数の上昇がみられる。客は近場で一度に買物を済ませる意識が高いことがうかがわれる。また健康志向の上昇から、良いものは購買し続ける傾向も強くみられる。 ・来客数の増加が顕著である。 ・ボーナス月で客単価が伸びている。 ・エアコンの販売台数が伸びている。 ・ボーナス時期で高額品の販売が出てきている。 ・6月の買上客数は前年並みであるが、客単価が5%上昇したことで売上も伸びている。 ・例年下旬から夏休みの期間となり繁忙期となるが、今年は特需として中国総体の開催が重なり、高稼働で推移している。 ・客の様子から景気が良い。 ・国内予約は依然低迷しているが、インバウンド予約が回復しているため少し上向いている。
	変わらない	商店街（代表者） 商店街（代表者） 商店街（代表者） 一般小売店〔印章〕（経営者） 一般小売店〔靴〕（経営者） 一般小売店〔食品〕（経営者） 百貨店（経理担当） 百貨店（営業担当）	来客数の動き 来客数の動き お客様の様子 来客数の動き 来客数の動き 来客数の動き 販売量の動き 販売量の動き	・暑くなって来客数が増えているが、季節的要因であるため、景気が良くなっているとは言いがたい。 ・客は余分なものは購入せず、まず最低限必要な量で様子をみて購入しているものの、その後の来店頻度は高くなっていない。 ・依然として買い控えをする客が多い。 ・今年の梅雨は雨が長く、来客数が少なくなっている。 ・数か月前から既製品の売を中止し、受注のみで営業している。順調に推移しており、客は予約して来店するので、天候に左右されることもない。 ・売上推移、来客数の動き、平均単価に変化はない。 ・7月の売上は前年を下回る見込みである。婦人服、観光部門は前年プラスで好調であり、お中元は前年並みの売上である。 ・婦人服は前年をやっとクリアする状況である。呉服や美術品、宝石が厳しいが、化粧品、雑貨、食料品の売上は良く、来客数は前年と同程度であり、店全体では予算をクリアしている。

百貨店（購買担当）	単価の動き	・先月に続き衣料関係は非常に厳しい。アパレル業界は春夏の売上が厳しいので、例年より早くクリアランスセールを始めているが、客は必要な商品を購入するものの、それ以外は安くても購入しない状況が続いている。ただし富裕層は美術品や宝飾品を購入しており、格差が出てきている。
百貨店（営業推進担当）	販売量の動き	・お中元の売上は前年並みに推移している。夏の暑さの後押しされてクリアランス商戦も前年をやや超えている。その一方で食料品のデイリー商品は苦戦しており、部門によってばらつきはあるが、おおむね前年を確保している状態である。
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・夏のクリアランスセールのスタートが前年より前倒しで各社一斉にスタートし、売上が好調である。特に日傘や帽子などUV関連の売上が伸びている。しかしながら6月の低迷が大きく、また7月後半の三連休はややセールの失速感があり状況は変わらない。
百貨店（売場担当）	来客数の動き	・6月までは来客数が増える一方で、買上客数が減少して厳しい状況にあったが、夏のバーゲンに入った7月は月初めから婦人服、洋品を中心に買上客数も伸びており好調を維持している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・客単価に変化はない。
スーパー（店長）	単価の動き	・来客数と販売点数は前年の100%、売上を押し上げている単価が103%である。
スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・来客数、販売点数とも前年並みに推移している。
スーパー（管理担当）	来客数の動き	・減少傾向であった来客数が微増ではあるがプラスに転じているものの、客単価が落ちているので売上増にはなっていない。ディスカウント店の進出もあり、日持ちする商品は価格面での対抗が厳しく、売上にマイナスの影響が出ている状況である。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・来客数は減少しているが、季節要因を除いては販売量に大きな差は発生していない。
家電量販店（店長）	お客様の様子	・客はエアコンの機能よりも価格に興味を示している。
乗用車販売店（総務担当）	単価の動き	・客の節約志向は依然として変わっておらず、必要最小限を希望する客に整備内容を提案しても反応は鈍い。
乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・ボーナスシーズンであるが、客の様子から増額している様子はない。
乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・月前半の来客数は前年並みであるが、三連休を境に前年の90%になっている。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・7月の販売量は前年の80%と大変厳しい状況であり、大手自動車メーカーの燃費不正問題の影響がまだ残っている。
その他専門店〔和菓子〕（経営者）	単価の動き	・客の様子に大きな変化はない。
その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	来客数の動き	・近隣で長期イベントがあり、それに伴い来館者数は増加しているものの、売上の伸びはない。ボーナス後の客の購買意欲の上昇に期待しているが、変化はない状況である。
高級レストラン（宴会サービス担当）	来客数の動き	・来客数は前年並みに推移している。
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・最近地方では給与と賞与の微減傾向が続いており、外食の単価低下が顕著になり、売上減少の主因になっている。
スナック（経営者）	来客数の動き	・景気は全く変わらない。極端に悪くも良くもない。
観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・円高傾向になりインバウンドの来客数が落ち込んでいる。
都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・来客数は若干増加しているが、単価が前年より低下している。
都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・宿泊では海外からの個人客が増え、団体客が減ってきている。レストランの来客数も減少している。
旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・参議院議員選挙が終了しても一向に景気対策が講じられず、今後も期待できない。
旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・繁忙期であるが前年より状況は悪い。

	タクシー運転手	お客様の様子	・中型タクシーは動いていないが、小型タクシーの動きが良いのでプラスマイナスゼロである。
	タクシー運転手	お客様の様子	・7月はボーナス月なので夜の仕事は増えているが、昼間に変化はない。
	通信会社（総務担当）	競争相手の様子	・自社と競合他社ともに、光アクセス回線のエリア拡大の動きがない。
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・サービス全体の動きは鈍いが、スマートフォンやモバイル関連は新作スマートフォン向けゲームの好調さもあって関心度は高い。
	通信会社（販売企画担当）	お客様の様子	・来客数は前年の8割である。
	テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・夏休みに入り週末を中心に少しずつ来客数が増えてきているが、景気回復を感じられるところが少ない。
	テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・来館者数と商品販売高は前年同月と変わらない。
	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・イベント等の来場客数が伸びず、客の動きが低調である。
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・何ら景気の上昇気運にはない。
	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・前回の消費税率引上げ以降、新築戸建住宅の引き合いが少ない状況が続いている。その反面リフォームの引き合いは堅調な状況が続いている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・イベントなどの集客は依然として多いが、慎重な客が増えており、決定打に欠ける。
やや悪くなっている	商店街（理事）	来客数の動き	・マイナス要素ばかり目立つ報道が多く、景気が良くなるイメージがない。心理的要因から不景気に感じ、客は買い控え傾向になっている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・客の財布のひもは固く、必要最小限の買物しかしない。
	商店街（代表者）	単価の動き	・バーゲン時期であるが、客は安くても購入しない。より安く、タイムリーに購入する傾向で、非常に苦戦している。
	一般小売店〔紙類〕（経営者）	来客数の動き	・観光客数に変化はないが、購入者数や売上はやや悪い。
	一般小売店〔茶〕（経営者）	単価の動き	・夏祭りの季節で人出はあるが、なかなか売上が伸びない。
	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・今年の夏セールは前年の分散スタートから一斉開始に変更したため、前年の売上を大きく上回ることを期待したが、定価時期に苦戦したミセスゾーンについては、値下げしても売上増加には結び付いていない。残念ながらセールが消費の起爆剤とはならず、値下げとなっても不要なものは購入しない客の堅実消費は継続している。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・5万円以上の美術品や宝石が売れず、10%の値下げに踏み切り苦戦している。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・客の買物動向に改善の兆しが見られない。必要な物を必要な量だけ購入して余分な物は購入しない状況が続いている。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・ここ3～4か月間は、来客数、買上点数が前年を割ってきている。
	スーパー（財務担当）	単価の動き	・燃費不正問題の影響で生産を停止していた大手自動車メーカーが生産を再開したものの、下請企業だけでなく広範囲の関係者が今後不安を持っており、節約により一点単価が下落している。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・浴衣等は既成品が売れているが、本染めによる商品はなかなか売れなくなっている。
	家電量販店（販売担当）	販売量の動き	・エアコン販売の動きが完全に止まっている。
	家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・来客数が前年の9割程度で景気はやや悪くなっている。
	住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・客単価が低下しており、売上が伸びない状態である。
	その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・客が値段に厳しく、少し値が張る商品は敬遠する。良い商品は欲しがるものの、購入には至らない傾向にある。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・景気のせいかわさのせいかわかではないが、人の動きが少ない。	
一般レストラン（店長）	来客数の動き	・客の動きが鈍っており、中心部への人の流れが減ってきている。ここ数か月好調であったインバウンド客が今月はあまり目立っていない。	

	一般レストラン (外食事業担当)	お客様の様子	・前年はプレミアム付商品券の利用が多くあったためその反動もあり、3か月前の売上は前年の95%であったが、今月は92%に低下している。来客数の減少、客単価の増加が続いているが、食べ放題コースの売上が前年の182%で、その中でも時間制限なしのコースが113%と大きく伸び、デフレの影響が顕著である。	
	都市型ホテル (企画担当)	来客数の動き	・デスティネーションキャンペーンが終わり、宿泊客の動向もインバウンドは好調であるが、国内需要は停滞気味で、特に参議院議員選挙期間の影響もあって、平日はレストランの集客が鈍化している。夏休みには中国総体開催で集客増を期待できる。	
	通信会社(広報担当)	販売量の動き	・ボーナス商戦ではそれほど動きがなく、第二需要期である盆期間や上期末に近づきつつあるが、商品の動きはさほど見られない。	
	通信会社(総務担当)	販売量の動き	・年度替わりに加え加入件数が増加したが、ここ数か月は通常の推移となっている。	
	テーマパーク (営業担当)	来客数の動き	・7月に入り真夏日が続いており、8月も真夏日の予報となっているため屋外施設の動きが鈍い。	
	競艇場(職員)	販売量の動き	・1日平均での売上が低下している。	
	美容室(経営者)	競争相手の様子	・激安店の出店やメニューの値段を下げる店が出てきているため、そちらに客が流れている。	
	美容室(経営者)	来客数の動き	・暑くなって髪を切る人はいるが、何かの行事の前に切る状況であるため来客数が伸び悩んでいる。	
	設計事務所(経営者)	お客様の様子	・国策として2020年省エネ基準適合住宅の義務化を控えている状況下において、補助金も準備されているにもかかわらず、消費者からの依頼が設計事務所にはない。	
悪く なっている	一般小売店[眼鏡] (経営者)	販売量の動き	・販売量、販売額、来客数すべてが落ち込んでいる。	
	スーパー(販売担当)	単価の動き	・売上点数は前年並みに推移しているものの、売上は前年の95%前後に落ちている。低価格商品しか売れなくなっており、完全にデフレに逆戻りした感がある。	
	自動車備品販売店 (経営者)	販売量の動き	・今年に入り6月までは何とか前年を維持するか上回ってきたが、7月に入ると急速に売上が低下し、世の中の雰囲気ガラッと変わったように感じる。	
	その他専門店 [海産物](経営者)	来客数の動き	・夏休みに入って個人客、家族客は増えているが、例年より来客数は少ないままである。	
	その他飲食 [サービスエリア内レストラン] (店長)	来客数の動き	・サービスエリア沿線の高速道路の交通量が減少しているため来客数が少ない。	
	住宅販売会社 (営業担当)	お客様の様子	・例年8月は酷暑で客の動きが悪くなる時期であるが、そのうえに消費税率引上げ延期の影響で、持家を検討する客が先延ばしにする傾向がみられる。	
	企業 動向 関連  (中国)	良く なっている	輸送用機械器具 製造業(経営者)	受注量や販売量の動き ・受注は順調である。
やや良く なっている		通信業(営業企画担当)	取引先の様子	・業種問わず現場活性化や効率化のソリューションとしてモノのインターネット等の新しい情報技術に関する問い合わせが継続しており、新たな分野での投資が見込まれる。
		不動産業(総務担当)	それ以外	・前月、前々月に比べ、来店数・成約件数がやや増加となっている。
		広告代理店(営業担当)	受注量や販売量の動き	・夏の販売促進シーズンに入り、客先ではイベント等の準備が進行しており、受注量も増加傾向である。
変わらない		食料品製造業 (総務担当)	受注価格や販売価格の動き	・現状大きな変動はみられない。
		食料品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・売上目標前年比105%になかなか届かない。
		木材製品製造業 (経理部次長)	受注量や販売量の動き	・4~6月は受注量と販売量がやや上向き傾向であったが、7月に入って一服感がある。英国のEU離脱問題による円高株安の影響が、市場では購買が慎重な様子がかがえる。今後は低金利政策で住宅市場が少しずつ落ち着き持ち直す見込みである。
		化学工業(総務担当)	それ以外	・業績が向上している企業があるが部分的であり、全体的な底上げ感がない。
		窯業・土石製品製造業 (総務経理担当)	受注量や販売量の動き	・短納期受注が入り、その対応のため時間外労働が増加して多忙な状態となっている部門があるが、継続注文品の生産は一定水準で変化はない。

		非鉄金属製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・好調な事業分野と低調な事業分野で差がある。6月の大雨の影響が残っており、平均すると横ばいである。
		金属製品製造業（総務担当）	それ以外	・ものづくり補助金によって受注が回復すると見込んでいたが、今のところ大きな変化はない。受注は生産能力の60%しかないため、期限付きで数名を他工場の応援に回している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・前年より商談件数は10%上昇しているが 成約にはなかなか至らない。受注先数は確保しているが、受注量が伴わない。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注は引き続き多く、先延ばしできない物件については断わる状況である。施工については技術者がフル稼働する状況が続いている。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・新規取引先の獲得と通信販売荷主の新しいモール展開で発送数が伸びている。お中元や食品関係の個人客の荷物の動きが堅調に推移している。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例月どおりの販売実績と言いながら、設備投資が意欲的に行われていないのが現状である。
		金融業（貸付担当）	取引先の様子	・お中元商戦に苦戦しているとの話を取引先から聞くことが多い。原料価格の高騰が続いているが、消費者の低価格志向は依然として強く、高価格帯の商品は特に動きが鈍い。個人消費が伸び悩む状況では、景気改善に今しばらく時間を要し、取引先の様子からすると景気は変わらない。
		金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・自動車部品メーカーの受注は引き続き高水準であるが、月2回程度あった土曜出勤が1回ないしゼロとなった企業が増えるなど操業度はやや低下している。
やや悪くなっている		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車部品関連の取引先を中心に全体的な販売量の低下で在庫調整に入り、受注量が減少基調にある。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・予算どおりに受注が来ていないことに加え、為替相場が不安定で収益予測が非常につきにくい状況である。
		鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・取引先各社の活動水準が低調で好転の兆しが見えてこない。為替の急変など環境面でも不安定な状況なため、競合となる輸入材の価格動向を見て注文を入れてくるところもあり、注視すべき材料が多い。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が内示よりも減少する状況が続いている。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	取引先の様子	・仕事量は確保しているが、新規案件の乏しさや円高の進行により景況感は悪化している。
		その他製造業 [スポーツ用品]（総務担当）	受注量や販売量の動き	・英国のEU離脱問題が今のところ静観状態となっており、経済は多少落ち着きをみせているが、この先の決着によってはまた乱高下が予測される。また日本の消費動向も依然として低調気味で先の見えない状況が続いており、景気回復の兆しは一向に見えてこない。
		建設業（総務担当）	取引先の様子	・英国のEU離脱問題、中国の景気後退、米国大統領選など不安定要素が多過ぎる。
		輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・倉庫保管数量や輸出入貨物の取扱が減少傾向で、やや減速している。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・今月はお中元シーズンの最盛期が参議院議員選挙の投票日になってしまったので、小売関係やそれに関連する印刷業界、物流業界も少なからず打撃を受けている。
	悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・6月と3月を比較すると、水揚げ数量は900tの減少、水揚げ金額は1億9,900万円の大幅減少である。減少理由は沖合底引き網漁、大中型巻き網漁、イカ釣り船漁、定置網漁の減少である。
雇用関連 (中国)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	職業安定所（産業雇用情報担当）	求人数の動き	・人手不足の状況で、今年に入り有効求人数が6,000人を超えて求人の滞留傾向が続いている。一方、前年比で新規求職者数が6.9%、有効求職者数が2.2%の減少となっており、月間有効求人倍率は3か月ぶりに1.5倍台に回復し、1.51倍となった。
		民間職業紹介機関（職員）	求職者数の動き	・複数企業から内定を得る求職者が増加し、それに伴い辞退者も急増している。採用枠1名に対して将来を見越して管理部門で2名の採用を検討する中小企業もあり、採用意欲が高い。

	学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	求人数の動き	・これまで採用されたことのない企業から学生が内定をもらっており、中小企業でも新卒採用への意欲が高い。
変わらない	人材派遣会社 ( 支店長 )	周辺企業の様子	・世界を取り巻く環境の中で、求人数や求職者数の動きからすると、大手企業以外はまだ影響を受けていない。
	求人情報誌製作 会社 ( 営業担 当 )	求人数の動き	・企業の求人意欲は変わらず強い。
	求人情報誌製作 会社 ( 広告担 当 )	採用者数の動き	・現在内々定をもらっている学生は約 8 割で、そのうち 3 割は就職活動を継続すると回答している。その理由は全国転勤があることや職種が希望と違うことなど、決定するだけの条件がそろっていない状況がある。そのためより良い条件の企業を求めて活動を継続している様子が見える。まだ内定人数が充足しておらず、活動を継続している中小企業もある。前年より採用人数を若干数増やした企業が目立ち、このまま充足しないで終わると、引き続き次年度も採用者数は増える見込みである。
	新聞社 [ 求人広 告 ] ( 担当者 )	雇用形態の様子	・前月同様サービス業や小売業を中心にパート、アルバイトが不足している。時間給を上げられないことが主な理由である。その半面スーパーでは60歳以上の従業員が軒並み増えているところもある。
	職業安定所 ( 産 業雇用情報担 当 )	求人数の動き	・新規求人数、新規求職者数共に 3 か月前と比べると減少しているが、有効求人倍率に変化はない。
	学校 [ 短期大 学 ] ( 学生支援 担当 )	求人数の動き	・保育関係の求人は少し良いが食物栄養関係の求人は少し悪く相殺の状況である。
やや悪く なっている	人材派遣会社 ( 支社長 )	求人数の動き	・ 4 月以降新規受注数は前年を下回り、5 ~ 7 月と徐々に前年比を下回る率が高くなっている。
	人材派遣会社 ( 経営企画担 当 )	求人数の動き	・新規開拓に若干厳しさが出ている。大手自動車メーカーの燃費不正問題、アップルショック、英国の EU 離脱問題からくる円高傾向などの影響がマーケットに出始めている。例年にならぬ状況下で、客の人材ニーズの変化を汲み取っていく必要がある。
	求人情報誌製作 会社 ( 営業担 当 )	求人数の動き	・増加基調であった新卒採用数が横ばい傾向になっている。
	新聞社 [ 求人広 告 ] ( 担当者 )	周辺企業の様子	・大手自動車メーカーの燃費不正問題により、4 月から県内の同社工場は生産中止状態に陥っていたが、7 月に入ってやっと操業が開始されている。しかしながら以前の水準にはほど遠く、協力会社への影響は当面続く。有効求人倍率は高水準で推移しており、慢性的な人手不足状態は変わらないが、企業の業績とは比例していない。
	職業安定所 ( 所 長 )	求人数の動き	・新規求人はフィギュア製造会社から増員募集のあった製造業が前年比 3 割増となったほかは、ほとんどの業種が 1 ~ 2 割減と低調だったことから、求人全体でも 1 割減となり、このところの横ばい傾向から減少に転じている。
	職業安定所 ( 雇 用開発担当 )	求人数の動き	・製造業の求人が前年同月に比べ減少している。
	民間職業紹介機 関 ( 人材紹介担 当 )	求職者数の動き	・求職者の動きを見ると、物流関係などの特定の職種や業種に関して多くの応募や採用があるため、表面上は景気回復傾向にあるように見えるが、そのほかの職種では採用数よりも人離れの問題を頻繁に耳にする。
悪く なっている	-	-	-